婦人と新社會

山田わか主筆

新年號

日本と支那

革命の妄想

◎現代靑年男女の心理

◎露西亞婦人の性慾道德觀

◎露西亞の離婚法

◎露西亞人の物慾

◎僞信者のたはこと

新聞記者と藝者

社交に就て

—編輯の後—

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十五年一月一日印刷納本

毎月一回一日發行　第七十號　大正十五年一月一日發行

東京府婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN
UNIVERSITY OF MICHIGAN LIBRARIES

日本と支那

日支親善はどの方面から見ても當然であるように思へます。同人種であり、同文であり、又、今日迄の關係から云つても、兩國が相提携することが双方の利益であることは云はずもがなでありますけれども、日本精神と云ふものと支那精神と云ふものとを比較して考へて見ると其處に非常な差があつて、そして、此の差が存在する限りは、どんなに外部的に親善が出來ても、本當の親善、則ち、內部的の親善は遺憾ながら不可能であるように考へられます。

日本精神と云ふものは國家の統一でありますから、有力な人間が現れて偉大なる功績をあげればあげる程國家は益々統一され、國本は益々强くなります。つまり、力ある者、てがらある者は其の力、其のてがらを私有しない。丁度、銀行へ金を預けて置くように、其の力、其のてがらを國へ捧げてしまいます。それが日本精神です。

これに反して、支那に於ては、力ある者、功績ある者はすぐに天下を取らうとする。我が力、我が功績を私有するばかりでなく、國をも私有しようとする。そして、さうするためには節を枉げようと友を裏ぎらうと一向お構ない。殊に支那軍人の詐欺的行爲に至つては何とも云ふべき言葉がありません。

統一が無い處には國家はありません。同時に文化はあつても文明はありません。

節操皆無な、無統一な、强い者勝ちな國家無視の行爲が常に行はれて居る支那と、節操を生命よりも重しとし、二千有餘年の統一の歷史を有し、國家觀念を益々鞏固ならしめようとしてゐる日本との親善は、實に、難事中の難事であるに相違ありません。

支那精神が日本精神に感化されるか、或ひは、日本精神が支那化するかでなければ日支親善の實があがらないように考へられてならないことが遺憾です。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

革命の妄想

現代青年男女の心理　此の頃の青年男女の大部分は過激思想にかぶれてゐて、新聞雑誌の記事でも左傾がゝつてゐさへすれば喜んでゐます。

その云ふ處は、我が國の狀態などは全然無視して、とうてい實行などは思ひもよらない浮薄なものであつても、それが左傾してゐさへすれば若い人達には歡迎されて、そして、さう云ふものを非難する人は思想が古いなどゝ云つて排斥されます。

そして、若い人達がさう云ふ風に左傾して行く標準は何處にあるかと云ふと、それはマルクス主義であつて、そして、そのマルクス主義は先づ、露西亞が徹底的に實行してゐますから、今の若い人達が進んで行かうとする標準は露西亞であります。

處で、その露西亞なるものが果して私共の目標とするに足るものであるかどうか、私達は考へて見たいと思ひます。

過激主義者に云はせると今の露西亞は實に天國のようです。露西亞政府の施設は一から十迄完全であるようです。處で、其の反對側の人に云はせると今の露西亞は本當に地獄のようであります。其處で、私共は此の兩方のうちのどちらを信じていゝか分らなくなります。

露西亞を研究しようとする學者は隨分澤山あるようですが、併し、わざ／＼露西亞迄出かけて行つた處がなか／＼其の眞相は摑めないもの

だと云はれて居ります。なぜなら、唯、單に行つて見た處で露西亞のスミからスミ迄分る筈のものではありませんし、殊に露西亞政府は其の全部を見せないようにしてゐると云ふことですつまり、乞食芝居や見世物は其のかんばんばかり立派にして見せてゐるが其れと同じようなものだとも云はれてゐます。

處で、露西亞を知りたいと思ふ私達にとつて大變都合のよいことがあります。それは露西亞の人でソロキンと云ふ博士が此の頃一冊の本を出版したことであります。それは『革命の社會學』と云ふのです。そして、此の本が最も正確に露西亞の事情を傳へてゐると信じられるからであります。

ソロキン博士はペトログラード大學の社會學課の學長であつて、そして、ケレンスキーと一緒に働いて居ました。けれども、レニンの時代になつてから、レニンと意見が合はないために三度も牢獄に投げ込まれ、そして、最後には死刑の宣告を受けました。けれども、此の偉い學者を失ふにしのびず、多くの人々の非常な盡力の結果、死刑に一等を減ぜられ露西亞から追放されることになりました。

追放されると、すぐ、チエツクへ行つて、そして其處で、五年間の革命中に本國に於て目撃した事實を土臺として書いたのです。

ソロキン博士は學者的良心の强い世界的に名聲のある學者でありますから、いゝ加減なことを書いて發表するような人ではありません。

外の外國の學者が書いたものもいゝかげんなものだと云つては惡いかも知れませんが、いくら正直に書いたからと云つて、外側からでは、或る一部分か、さもなければ、かんばんだけを見て書くのですから、結果は矢張りあてにならないと見なければなりません。

それに反して、ソロキン博士は露西亞の内部

に居た人で、信用出來る學者でありますから、先づ、此の人の書いたものは最も正確であると見て差し支へないのです。

博士は自分の偏見がまじつてはならないと云つて、統計は皆今の勞農政府の報告を基礎としてゐます。

露西亞婦人の性慾道徳觀 博士の云ふ處によると、露國民の男女關係の墮落の第一のしるしは、人々の日常の言葉や、新聞雜誌の記事や、宣傳書や、單行本等に現れてゐると云ふことです。コロンタイ夫人や、文部次官の位置に居るリ、アン・ジノヴエフや、ポレタエフや又はレニン・ルナチヤルスキーなどの言葉のうちには『結婚や家庭生活はブルジョアの迷信である』と云ふのがあり、又「男女關係のつゝしみとか、純潔とか、一夫一婦の夫婦とか云ふものはブルジョアの偏見であり、資本主義の所有本能の表れだ』と、あざけつてあり、であるから、「もし、若い男女がお互ひに相愛するならばその愛は絶對に自由である。性的關係は我々人間の自由行爲でなければならぬ」とか、「結婚などゝ云ふものは法律上認められた腐れ緣である則ち、ブルジョア社會の僞善のかたまりだ」などと云ふ言葉もあると云ふのですが、そして、これが實に勞農政府の最高幹部の言說であるのです。

そんな調子ですから、十五才になる女學校の生徒が姙娠しても、それは當然なことだとして見られてゐます。此の少女の姙娠に對して前にあげた勞農政府教育委員長のリ、アン・ジノヴエフは「それは完全に合法的な性慾の滿足であつて、同時に、母性の義務の實行だ」と云つてゐます。

そして、こう云ふ意見が、今は、青年男女の學生間にどん〳〵擴がつて行つて、學生の男女關係は全く無制限の狀態にあると云はれてゐま

す。そして、此の性慾の自由の要求が或る場合に於て婦人國有の要求となつたのだと云はれてゐます。

露西亞の離婚法　一九一七年十二月二十日に離婚に關する新らしい法律が露西亞に發布されました。此の法律によると、夫婦のうちの一方が離婚の希望を申出れば、それは直ぐに許下されます。朝、結婚して、晩に離婚して、翌朝、外の人と結婚してもよいのです。そして、甚しいのになると、朝結婚しておひるに離婚して、晩に外の人と結婚してもよいのです。

ですから、これは、不圖した出來心の男女關係を法律が認めると云ふことになるのです。

從つて、墮胎に關する法律もゆるやかになつて、勿論以前には其れは刑法に觸れたものですが、今は大抵の場合は見逃がされてあるし、又公然と許しを受けることも出來るようになつてゐます。

其處で、ソロキン博士の擧げた統計によりますと、第一には離婚の數が多くなり、第二には結婚生活の期間が短くなつてゐます。

一九一八年のモスコーだけの統計を見ると一ケ年の離婚數が六千になつてゐます。

ペトログラードでは一九二〇年には十六組みの結婚のうち離婚が一ツ、二十一年には八ツの結婚のうち離婚が一ツ、二十三年には六ツの結婚に對する一ツの離婚と云ふ割合になつてゐます。

地方へ行くと猶ひどくなつて、四組みの結婚に對して一ツの離婚があつて、ニコラエフは三組みの結婚のうち離婚が一ツと云ふことになつてゐます。

要するに、これを一言で申ますならば、露西亞に於ては、性的關係を制限してゐたバネが切り取られてしまつたのです。

男女關係を制限してゐたバネが切り取られて

男も女も全く自由に行動する結果、苦しめられるものはいつも婦人です。

一切の外のことは考へずに、唯、姙娠と云ふことだけを考へても、苦しみ、負擔を負ふのは男子でなくて婦人であります。

露西亞人の物慾　それから、共産主義が實行に移れば人間は無慾になり、凡てが公平になると云ふのが、共産主義者の主張でありますが、併し、露西亞では共産主義になつたゝめに如何に財産慾が大きくなり不公平になつたかは泥棒が大變多くなつたことでも分ります。

一九一八年のペトログラードの統計によるとせつ盗事件は三十八萬七千件あつて、それは、丁度、人口の二割二分に當つてゐると云ふことです。

と云ふのは、共産主義になれば一般がゆたかになり幸福になると宣傳されて居た處が、事實は一般が貧民狀態になつたからであります。

食料品は、一般に平等に配給される筈であつたのに、一九一八年の配給を見ると、それは三十種以上に區別があつて、政府の人達への配給品は、世界でのゼイタク品となつてゐるカビエと云ふものや、果物やブドウ酒や肉類であるに反して、下級の人達にはやうやく餓死を免れる程度であり、しかも、これは一年のうちに四週間位しか貰へない、そんならば泥棒が殖へるのも亦止むを得ないでありませう。

勞銀も、矢はり、さうで、凡ての人が平等ではなく、三十四種類にも區別されてあると云ふことです。

露西亞の此の狀態は實際、恐るべきものであるにも拘らず、併し我が國の青年男女が此の露西亞を讃美し、標準とする傾きを示して居ることは、本當に困つたことであるに相違ありません。

次にソロキン博士自身の言葉を御紹介して置

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きませう。

僞信者のたはこと

モリエルの戯曲中の人物タルテュフエ——僞信者と云ふ意——は今は何千何萬と云ふ數に上ぼつてゐて、それ等のタルテュフエの活躍は個人的にも社會的にも大きな注意を惹きつゝある。

彼等は彼等自身のアイソのつきる行爲を堂々たる言葉や、高遠な理想に包んでゐる。

彼等は容易に彼等自身の目的を遂することが出來る。なぜなら、此の頃の世間は彼等の行爲によつて彼等を見ないで、彼等の言葉によつて彼等を判斷するから。そして、社會的寄生虫が英雄と云ふ名を與へられ、カラツポウなおしやべりが自由のための榮光ある戰士となつてゐる。

筋肉勞働や其の他の本當の勞働を嫌つて懶けてゐる無職の人間が勞働階級の保護者と云ふ名譽を獲得してゐる。そして、彼等は其の名譽を土臺として自分等の經歷を造つて行く。

在來の古くさい偏見に對抗すると云ふ名目の下に、道徳的にゆるツたい、勝手氣まゝな行爲をして、そして、それを自由主義と稱してゐる。しかも彼等の勢力は無限である。

一體、こう云ふタルテュフエは過去にもあつたし、今も云ふ通り現在にも無數にあるし、將來に於ても存在するに相違ないが、併し、恐らく、革命期程其の勢力を逞しくする時にないだらう。故に革命は一大タルテュフエと稱してもよいものだらう。なぜなら、革命程、その徳性を自慢しながら併しその徳性を持たないものはないから。

革命程、有りもしない價値を宣傳するものはない。慘酷な所業や、恐しい罪惡が英雄的行爲と銘を打たれ、小人が巨人となり、無駄口をたゝく奴が雄辯家となり、徳義心のゆるツたい奴が自由の神樣と祭り上げられ、社會的寄生虫

が社會の救ひ主と仰がれるようになる。
こう云つたならば、餘まりひどすぎると思ふ人があるかも知れないが、併し、悲しいことには、其れが餘まり實際であり過ぎる。しかも、實際の何十分の一しか云ひ盡せてゐない。と云ふのは、今、云つたことは今迄の革命に現れた事實を決算して見て、さうなつたので、これから先き、革命が拂ひ出した手形と仕拂ふ行爲とを差し引いて見るならば思ひなかばに過ぐるものがあらう。
革命は常に任意か、不任意の破産であり、仕拂ひ不能の債務者である。
革命が約束する數々を其の結果の數々と比較して見るならば、如何に其の主張が虚であり、タルチユフエ的であり、皮肉であるかは誰にでも直ぐ了解出來る。
勿論、革命にも幾分かの積極的の結果はあるけれども、自殺に於てゞすら、又は、大戰爭のような不幸事に於てゞすら、或ひは、又、大地震のような此の世に於ける最大不幸事に於てゞすら、幾分の積極的の方面はある。併しながらその積極的の結果は消極的の結果と比較した時には如何にも小さい。消極的の結果が大海ならば積極的の結果は一滴の水位にしか當らない。つまり、不幸な結果があまりに大きくて、幸福な結果が殆んど無いと云つてよいのだ。
最近の露國の革命は其の革命の進行に棹してゐるのではない。つまり脱線してゐるのだが、併し、露國に於ての今日の權力は極端な革命家の手に歸してゐる。そして、露國に於ける凡ての變化は皆此の極端論者の手によつて遂行されたものだ。故に、彼等は凡ての失敗の責任を負はねばならない。現に、其の幹部の一人は云つてゐる。
「露國がこうなつたのは我々の意志ではない我々はこれとは全く異つたものを要求してゐた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のだ』と。

併し、一國の政治を取る者は、自分の慾望と約束に對しては責任を負はねばならぬのみならず、猶、又、彼の言説及び行爲の客觀的結果に對しても責任を負はねばならぬ。

設計者は自己の提案にかゝる計畫に對して責任を負はねばならぬのみならず、その計畫を實行することから起つて來る結果に對しても責任を負はねばならない。

曾てレニンは云つた。

『我々は誤まつた』

と。けれども、自分の不明から數百萬の犠牲を出し、そして、其の上にもまだ無數の犠牲を出そうとしてゐる時に、自分の考へが誤まつてゐたことを認めただけでは責任を盡したものだとは云はれない。

實に、我々が道徳的に最惡とするものが革命家のためには道徳的標準であるようだ。たとへば、一九二三年六月十八日、トロツキーはスエルドロツフ大學に於て催された共産黨五週年記念日に於て露西亞青年に向つて次のような倫理的教訓を發表した。

『革命家とは從來の一切の傳統を根こぎにして、最も無情な壓制を少しの恐れも感じずに行ひ得る人物である。その壓制を行ふ時に當つて有形な障碍に出逢ひ制限を受けようとも併し道徳的に抑制を受ける必要はない。今日の狀態は眞の革命家にとつては、主觀的な考へ、つまり倫理觀念によつて客觀的の障碍を增す場合が度々ある。故に、革命家の教育は凡ての主觀的の障碍則ち宗教、道徳、法律等の權利を一切排すことだ。實に、それ等の要素が革命家の行はふとする無情な壓制を妨げるようになる。故に、我々革命家は唯物主義の重要なる要素、則ち、無神論を恐怖主義的革命教育の無くてならない要素と考へて居るのである。』と。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

倫理上の皮肉主義の此の宣傳に對しては今更註釋を加へる必要はない。なぜなら、露國共產黨が今迄に實行して來たこと、及び、今現に實行しつゝあることを其れは言葉にしたに過ぎないものであるから。

　それ等の深い根を張つてゐる革命の消極的の結果は今の革命黨の幹部が外の革命黨の幹部に取つて代はられた處で同じである。

　露國、佛蘭西、英國、及び、ハッスの革命は塞きとめられるものではなかつた。そして、權力は革命のために有名になつた團體又は個人の手に歸してしまつた。そして、この個人又は團體の手に權力が歸すと云ふことは、革命の標語及び約束とは正反對な結果である。

　實に、革命は或る一ツのことを宣言する。けれども、結果は其の宣言とは全く異つたことになる。故に、今日發表したことも明日は踏みつぶしてしまうことになる。

過去の革命がさうであつたが、今日の革命も矢張りさうだ。

　革命家は此の地球上に天國を設定しようとする。彼等が天國を設定しようとするならば誰も其れを止めはしない。が、彼等は自分で宣言をしては自分で其れを止めてゐるのだ。實に、彼等は此の地上に天國を設定すると約束をして、そして、その約束を實行するに當つて出逢はねばならぬいろ〳〵の要素を計算することをしないのであるから、要するに彼等は空想家であるのだ。つまり、家に火をつけて置いて、そして火事を豫想し得ない愚物であるのだ。

　彼等の進路に當然横つ　ゐる障碍物を計算することをせず、それを乘り切ることが出來なくても、併しその事實が彼等を辯護しはしない。

　家に火をつければ家の中には居たゝまらないと云ふこと、その結果は唯犧牲と荒廢のみだと云ふことを知りながら彼等が火をつけたとする

ならば、彼等は當然牢獄の中へ投げ込まれて居るべき筈だ。

私は此處でさう云ふ火つけに判決を下そうとして居るのではない。唯、逆上しきつてゐる革命家の錯覺を證據立てようとするのみである。

愚鈍な、自己に對してのみ最も寛大であらうとする愚物と同じく、革命家は自己の失敗の原因を自己のうちに、又は、他の革命家のうちに認めようとはせず、いつも反對側の人々や外部の事情のうちに認めようとする。

もし、歴史を理解し、そして常識があるならば、人は決して革命によつて社會の不幸を救濟しようとはしないだらう。

けれども、人の理性は甚だ不完全であるから過去現在に於てばかりでなく將來に於ても亦革命はあるかも知れない。が、その結果は必ず不幸に終ると云ふことを私は斷言する。

故に、今に於て、無用な犠牲、無用な苦しみ

無用な破壞を避けるために、革命の妄想から覺めねばならぬ。

革命は最も不適當な者を先頭に立てる。そして、國民中の最善な要素を滅亡させ、最惡な要素を保護する。從つて善き子孫を殘し得る善き遺傳性を破壞してしまふ。實に、積極的な國民性の生物學的遺傳的源を貧弱にしてしまふのである。

故に革命は國民の健康と活力を減退させるものであり、そして、その健康と活力の減退は革命の殘酷性と年月の長短に正比例する。

謹賀新年
大正十五年一月元旦
山田嘉吉
山田わか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新聞記者と藝者

一

婦人と新聞と云ふことを思ふとすぐに私が思ひ起すことは今から二十年前私が米國に居る時分に新聞社がしきりに婦人記者を採用してゐた時のことです。

けれども、それは普通の新聞記者としてゞはなく、まるで、今の活動女優のように活躍させるためでありました。

男でも恐れを感じてゐるような冒險をさせて見たり賣笑婦によそほはせて名士を釣らせて見たり、女中に仕立てゝ名流の家庭のうちまくを探ぐらせたり、つまり、大抵の場合が變裝記者、冒險記者であつて或る種類の役目を活躍させられる、一言で云へば、婦人記者をして新聞種を探訪させるのではなく、彼女等を新聞種としたのでした。

我が日本では、それから二十年後の今、現に、さう云ふ方面に婦人記者を使役してゐる大新聞があります。

米國でも一時は其の方法が世間をアッと云はせましたけれども、併し、それはつまらないことであるのでいつ迄も興味をつないで居ることはできませんでした。

と云つて婦人記者は、例外はあつても、普通には男性記者と同じような仕事には先づ適當でなかつたので使ふ方でも使はれる方でも馬鹿々々しくなつて、米國では自然と婦人記者は姿を消してしまいました。つまり、一時歡迎された婦人記者なるものは本當の新聞と云ふものゝ範圍に入らずに、云ひ直せば本職の新聞記者とはならずに終つたと云ふわけです。

勿論、多くの婦人記者の中には文章も達者であるし一流の記者となり得る資格を持つた婦人もありましたが、併し、新聞社の婦人記者に對する馬鹿々々しい要求に耐へられないので、記者生活をやめて單なる寄書

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

家になつた人もあります。

二

何處の國も同じで、そんなわけですから、今日の新聞には先づ男子のみの手によつて造られてゐると云つても過言ではないでせう。今は婦人記者の數も相當にあるようですが、併し、彼女達の意志は新聞の表面には少しも現れてゐない、つまり、下働きでありますから從つて、新聞紙が婦人に滿足を與へないのも當然であるでせう。

で、昔の新聞がどうであつたにしろ、今の新聞が婦人の目にはどう映るかと云ふと、丁度、藝者のような氣持ちがする處のあるのを私は遺憾とするものです。

藝者は化粧の仕方にも熟練してゐるし、着物のガラの見立ても上手だし、體のこなし方も精練されてゐてあかぬけがして氣がきいてゐるが、併し何處となく何とも云へぬいや味がある。同時に、こはいような氣持ちがする。そして、それは、彼女等の生活が二重生活であり、いつどんな場合に良家の婦人を泣かすようなことを仕出來すかも知れないと云ふ恐れを有識無識のうちに私達が持つてゐるせいだらうと思ひます。つまり、藝者は技巧に於ては申分ないが、人格がないので私達は彼女等を信ずることも親しむことも出來ないのですが、それと同じ氣持ちを私達婦人は新聞紙に對して持つてゐるのです。

今日の新聞は文章もうまいし、記事に對する着眼點も氣がきいてゐるし、つまり、其の技巧に於ては日に月に進歩しつつあるが、併し、いつ、何處で、どんな風に裏ぎられ、馬鹿にされるか知れないと云ふ氣持ちをどうすることも出來ないのです。

三

私達は、今の藝者が本當の藝術家になつて、彼女等の存在が國民を墮落させる要素である代りに日本文明推進の一要素となることを希望してゐます。そして、藝者をあげることは藝術に親しむ意味でありたいと思ひます。

新聞記者が一般家庭から何となく嫌やがられてゐるのは、今の藝者と同じように二重生活者(倫理的に)であるからです。つまり、不純であるからです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、新聞記者なるものが女性と男性と數に於てゝ重要さに於てゝ待遇に於てもほゞ同じようになつた時に且つ、彼等の常識が發達し、聰明な人格者となつた時私共婦人が滿足し、信用出來るような新聞が出來るようになるでせう。

今日の新聞のように一種の興業機關で、記者が其の活動役者である間は記者生活の二重人格を廢することは不可能であるかも知れません。從つて新聞の使命に忠實な新聞が出來る筈はありません。そして、それが一般社會、殊に、婦人に滿足を與へないのも無理はありません。

實に、今日の新聞は興業機關としては成功してゐるかも知れませんが、新聞紙としては隨分もの足らないと私は考へてゐます。

そして、今日の新聞記者の大多數が左傾的になつて得意顏して居る處は、藝者がカラッポな頭を振りまはしてキイタ風をしてゐるのと同じです。

社交に就て

今日、一般に行はれてゐる所謂社交は眞の社交の意義、その精神的の方面が全然沒却されて、唯肉感の快樂にのみ耽けらうとしてゐるかのやうな觀がありきす

知力的精神的の交換を目的として始められた社交機關でも、いつの間にか其れが飮み食ひして樂しむ機關となつてしまつてゐます。

呑んだり食つたり騷いだり、云ひかへれば、單なる肉感的快樂の追求であつて見れば、その肉感のより高調することを望むのは自然ですから、其處に藝者なるものが招じ入れられるやうになるのも亦自然の成り行きでありませう。

けれども、これが果して眞の意味の交際であるでせうか？　之は友人同志の交際と云ふよりは、友人と藝者との狂態を見物させられると云つた方が適當でせう

社交の性質が何であれ、其起原は何であれ、兎に角社交と云ふことは人と人との間に存在するへだて心を取り除けて親しい氣持を作り出すことであり、故にど

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こ迄も眞實を持つて人に對さなければならず、そして、さうするには、縱令、一時的でも自分の持つてゐるよい方面を出すことです。

けれども、我が國民はまだ社交の本當の意味を知らないのでたま／＼大勢の人をあつめる必要があると、すぐに、藝者と云ふやうな低級な者を招き入れてそして、人と人との間の融和を圖らうとする。之は眞に恥しい事であり、同時に本當の意味の社交を望む人にとつては迷惑至極であります。

私共は、知力的に精神的に成長して行くことを望んでゐるものです。そして、社交は其の成長を助けつ助けられつするものです。

一個人の經驗、及び、一個人の視野の範圍はたかゞ知れてゐます。けれども、よき友を持ちよき社交を爲すことによつて、自分の經驗を傳へたり、人の經驗を傳へられたり、お互ひの視野を交換したり、斯して相互が大きくなつて行く、そして、之を社交の使命の一つだと私は考へて居ます。

▲編輯の後▼

大正十五年のお正月が來ますと本誌も七歳になります、子供ならば、そして、昔風の家庭ならば七つのお祝ひと云ふ處ですが、併し、本誌はお祝ひが出來る程大きくなつて居りません。親の罪か？　環境の罪か？　それでも、小さくともうちに漲ぎる生命の力は決して弱いものでないことを誇りとして居ります。

皆樣が平和なよいお年をおとりになるよう祈つて居ります。

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	送料共

●誌代及郵税は前金の事●御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと●郵券代用には五厘切手にて一割増●廣告は御照會次第御相談いたします

大正十四年十二月廿三日印刷納本
大正十五年一月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN